

平成 24 年度 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム
社会科学重点大学連携強化に向けた若手研究者海外派遣事業
成果報告書

派遣期間終了後、2 週間以内に1から3まで記入のうえ、評価教員と在籍する／していた研究科の事務室に電子ファイルにて提出のこと。
(評価教員へは申請時の「研究計画書」を併せて提出のこと。)

| | | | |
|-------------------------------|----------|-------------------|-----------|
| 1. 報告者: | | 報告書提出年月日 平成 年 月 日 | |
| フリガナ 氏名 | | | |
| ローマ字氏名 | | | |
| 所属・身分 | | 学籍番号 (在学者のみ) | |
| 住所 電話 Email | | | |
| 博士論文 (計画) 題目 | | | |
| 本派遣事業 での研究題目 | 和文 | | |
| | 英文 | | |
| 指導教員名 | | | |
| 2. 派遣先機関・派遣期間 | | | |
| 複数機関への派遣の場合は、行き先を別々に記入してください。 | | | |
| 機関名 (国名、機関名) | 和文 漢文 | | |
| | 欧文 | | |
| 受入研究者の 氏名・身分 | | | |
| 派遣期間 | 平成 年 月 日 | ～平成 年 月 日 | (延べ ヵ月 日) |

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、1 頁目)

以下の諸項目について、3 頁以内の分量で具体的に記載してください。(1) 派遣中の研究活動記録(研究発表や学会報告、投稿論文等の執筆、現地調査や資料収集を含む期間全体について、いつ、どこで、どのようなことを行ったかを、時系列に簡潔に記述すること)、(2) 当初計画書と派遣先での実際の研究活動との関係、(3) 当派遣事業により得られた研究成果(計画する博士論文や投稿論文等および学会報告との関係も含め、1,200 字程度[図表を含めてよいので、わかりやすく記述すること])、(4) 派遣期間中に構築した研究者間ネットワークの具体的内容、留学に関する反省点や今後の展望等、(5) その他(本派遣事業への要望等)。なお、記入内容の一部を本派遣事業の成果としてウェブサイトに掲載することもあります。

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、2 頁目)

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、3 頁目)

※以下は評価教員が記入します。

| 4. 評価書 | | | |
|---|---|---------|--|
| 評価教員氏名 | 印 | 派遣帰国者氏名 | |
| <p>評価教員へのお願い：「研究計画書」及び「成果報告書」をふまえ、海外派遣帰国者と面談(面談できない場合はメール等によるコンタクト)のうえ、以下の諸点をご記入のうえ、所属研究科等事務室にご提出願います。</p> <p>(1) 海外派遣帰国者が事前に提出した計画書と比較したうえでの達成状況の具体的評価(a.事前準備の計画性、b.実施運営の適切性、c.学術貢献への配慮、d.成果報告の適切性)など。</p> <p>(2) 海外派遣帰国者の研究基盤の充実や研究活動に対して本事業がもたらした貢献。</p> <p>(3) 海外派遣帰国者の今後の研究活動の進展のために、指導教員として行った助言・指導内容、その他。</p> <p>※提出された成果報告書および評価書の内容をもとに、個人名が特定されない形で担当者が本派遣事業の成果を内外に発信する予定です。</p> | | | |